

2015年6月の金融経済概況のポイント

—— 主に5月の景気指標やヒアリングをもとに判断しました

■景気の基調判断

- 6月も、景気について「基調的には持ち直している」との判断を据え置きました。観光は引続き好調ですが、公共投資が減少したほか、個人消費は横這い圏内の動きが続くなど、景気全体としては前月までと大きな変化はありませんでした。

—— 昨年11月にトーンダウン（下方修正）して以降、「基調的には持ち直している」の判断を据え置いています。

—— 項目別には、公共投資について、「減少している」に変更しました。

■個人消費の動向

- 5月の大型店売上高統計をみる際には、前月と同様に、前年5月は消費税率引き上げ後の買い控えがあって消費が落ち込んでいたことに注意する必要があります。数字上は、4月（前年比+3.8%）、5月（同+2.3%）と2か月連続でプラスとなっていますが、前年のマイナス幅（4月同▲6.5%、5月同▲3.4%）に比べると今年のプラス幅は小さいものに止まっているとみることもできます。
- また、消費税率引き上げの影響がなかった一昨年との対比でみると、4月▲3.1%、5月▲1.1%とマイナスが続いています。これを、旭川市内とそれ以外の地域に分けてみると、旭川市内ではマイナスが続いている（4月▲4.9%、5月▲2.4%）のに対し、旭川市内以外の道北では5月は+1.0%に回復しています。集計には新規の店舗は含まれておらず、旭川市内で店舗間の競争が厳しい様子も窺われます。

▼大型店売上高

	—— %					
	前年比			前々年比		
	道北計	旭川市内	それ以外	道北計	旭川市内	それ以外
4月	+3.8	+3.5	+4.1	▲3.1	▲4.9	▲0.3
5月	+2.3	+2.0	+2.7	▲1.1	▲2.4	+1.0

- 個人消費については、依然として横這い圏内の動きが続く中、店舗間の競争の影響が出ている地域とそうでない地域が分かれているとみられます。

■観光の動向

- 層雲峡には、引続き多くの外国人観光客が訪れているほか、知床方面も本州の景気回復を反映して、関東地区からの個人客が増えています。既に夏場の観光シーズンの予約も好調とのことで、今後とも観光が道北景気の牽引役となっていくものと見込まれます。

■公共投資の動向

- 前年度の補正予算と合わせた今年度の予算規模が縮小していることから、5月の公共投資は、前年比減少となりました。業界内では、夏場にかけて厳しい見通しが聞かれています。

■今後のポイント

- 道北では、景気の基調判断の据え置きが続いていますが、この背景には、企業、家計ともに景気の先行き不透明感がなお根強いことが影響しているとみられています。現状、観光については明るい話題が多いのですが、公共投資の先行き見通しが厳しいほか、個人消費についても、力強く回復するには至っていません。
- 5月の公共投資は減少しましたが、7月短観(7月1日公表予定)において、建設関連企業がどのような景気の先行き見通しを示すのか、注目したいと思います。
- 一方、個人消費は、天候にも左右されますが、本格化している夏物商戦や各地のプレミアム商品券等が個人消費の起爆剤になることを期待したいと思います。
- 今後、観光に次ぐ景気の牽引役が現れ、景気回復の期待感が広がって行くことが望まれます。

以 上

